

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2893000246 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター 尼崎稲葉荘 (ひまわり) | | |
| 所在地 | 兵庫県尼崎市稲葉荘4-5-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年4月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2893000246&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成24年2月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとってホームの理念である”楽しいわが家”でありたいと、チームケアを大切にしている。尊厳を守り、その人らしい暮らしが持続出来るように自立支援をさせて頂く。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たのしいわが家」との理念を掲げ、重度化傾向にある利用者の自立をどう支え楽しい日々が過ごせるかを課題に挙げケアに取り組んでいます。管理者はチームケアこそが利用者を支える要と考え、職員間で気軽に意見を出し合い方針の共有をはかり、家族の協力も得ながら理念の実践を心がけています。日々利用者が生き生きと過ごせる為に手を貸す事が利用者にとって是非かなど、職員間で提案やアイデアを出し合い利用者本位の支援が出来るよう利用者の立場に立って考えています。また尊厳の大切にした声掛けを心がけ、利用者が安心して普通の暮らしが送れるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 者 第 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者と、申し送りスタッフは朝礼時にニチイの”社是”および”経営理念””ほほえみ尼崎稲葉荘理念”の唱和を行い 共有している。 | 利用者が明るく元気でわが家で寛ぐようにありたいと「たのしいわが家」と理念に謳い、毎朝法人理念と共に唱和し確認しています。地域の方々と挨拶を交わしホームの存在をアピールし、職員会議の場でも理念に沿ったケアになっているかなど振り返っています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入会し 自治会長 民生委員さん等に運営推進会議に参加して頂き、情報交換している。(利用者様参加もあり)小学校訪問、地域の子供と気軽に触れ合える機会を作っている。(夏祭り、消防訓練など) | 散歩や買い物時には挨拶を交わし、少しずつ交流が育まれています。自治会から様々な情報を得て、市の主催する「すこやか祭」には利用者と共に作成したちぎり絵の壁画を出品しています。小学校の課外授業受け入れ提案等もあり、積極的に働きかけ交流したいと考えています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の講演会で認知症のことをお願いしたいと依頼があるので貢献していきたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の運営推進委員の方から意見や助言を頂き、ホーム運営に活かしている。 | 二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、事業所の状況や行事の報告などを行っており、毎回複数の家族の参加があります。看取りについての研修報告を行った時などは、参加者からそれぞれの思いが活発に出され、有意義な会議となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂いているので 困難事例等を相談していきたい。(GH連絡会に高齢介護課職員の参加あり) | 市の窓口には制度についての質問や、疑問などがあれば出向いたり電話などで問い合わせています。地域のグループホーム連絡会には市職員の参加もあり、意見交換するよい機会となっています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 業務ミーティングにてマニュアルの周知を行い 正しく理解している。 玄関は施錠はしていない。 | 法人の身体拘束に関する研修に参加する他、事例を挙げてミーティングで話し合い常に意識できるようにしています。玄関は夜間以外は開錠されていますが、ユニット間は施錠されており家族にも同意を得ています。帰宅願望のある方などには人を変えたり、寄り添って対応し、時には一緒に出かけています。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 業務ミーティングで充分に全員に周知できている。スタッフ間の情報交換も行っている。 利用者様の変化に注意する。 | 研修やミーティングなどで虐待について具体的な事例を挙げて学び合っています。職員間で気になる事はお互いに話し合い、助け合うことでストレスをためないように工夫をしています。利用者はホームが24時間の住まいであり、常に利用者の立場になり支援するよう心がけています。 | |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | スタッフ会議にて話し合い 必要性のある方には 支援していく。 (パンフレット回覧あり) | 成年後見制度のパンフレットを中心に、職員の理解に繋げています。実際には成年後見制度の補助の利用があるなど活用がなされています。利用に当たっては、家族との話し合いや、市に問い合わせるなど活用できるよう支援しています。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、利用者様と家族様が不安に思うことに耳を傾け、納得いくまで話し合いを行っている。 | 入居に当たっては出来るだけ時間を取って、利用者や家族の不安の解消に努めています。特に退居の条件や入退院、看取りなど様々な状況の質問にも丁寧に対応し納得のいく契約に繋げています。料金改定時は家族会で説明し、了承を得ています。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 介護相談員さんの定期的来所(2回/月)や、行事参加などで利用者様の話しを聞いて頂き、毎回内容・報告をうけて検討項目とし運営に反映している。 | 年2回の家族会や、満足度アンケート、運営推進会議への出席などで要望を聞く機会を作っています。日常的には家族の来訪時や電話などで意見や要望を積極的に聞くようにしています。家族会の際に医療連携体制についてメリットとデメリットについての質問を受け、結果についてはホーム便りで報告しています。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議で意見や提案を聞くようにしている。個人面談も随時行っている。 | 職員は個々の意見や提案を事前に書面で提出し、会議ではお互いを尊重しつつ意見交換がなされています。危険でない限り試みるという管理者の考えのもと、レクリエーションや個々のケアに活かしつつ、利用者本位の支援に向けた検討が行われています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアアップ制度の周知によるモチベーションの向上を図っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修には全員が参加できていないが、業務ミーティング 導入研修 ケアマネ研修 ホームの勉強会等(毎月)を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会(討論会・交換研修・勉強会等)に参加して、サービスの質の向上に努めている。 | | |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様本人から聞くことは難しい為 家族様にも協力して頂き 出来るだけ 利用者様の思いをくみとり安心して頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族様の話しを聞く機会を作って 困っていること、不安に思うことを聞き、納得がいくまで回数を重ねて話し合う。 | | |
| 17 | | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回アセスメント時に、生活暦等を把握し、馴染みの暮らしが持続できるように支援を見極めている。 | | |
| 18 | | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 調理時の下ごしらえや配膳・味付け、洗濯物のハンガー掛けや居室掃除など、利用者様と共に行うことで共存の意識も生まれ利用者様から意見をいただき、それを次回への改善に活かしている。 | | |
| 19 | | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | スタッフは利用者様と家族様との仲介役を担い、イベントなどに参加を促したり、生活ぶりや 身体 の状況等を 毎月ホーム便りを通してその様子などを報告している。 | | |
| 20 | (11) | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 電話の取次ぎや面会時の案内などより良い支援を心がけている。 | 知人や友人の来訪もあり、電話のやり取りなども含めた支援を行っています。昔歩いた武庫川の散歩や家族の援助を得て法事やお正月の帰省など利用者の希望に沿った支援をしています。 | |
| 21 | | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士が関わりあい、孤立しないようスタッフが仲介してサポートしている。 | | |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了すると、家族様との連絡も少なくなり、必然的に関係がうすくなっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (12) | | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前にセンター方式にて情報収集し、できる限り家族様、利用者様の希望・意向の把握に努めている。 | 入居に当たって、家族に生活歴や状況を聞いたり入院中であれば医師や看護師を交えたカンファレンスで意向や要望を把握しています。日々の生活の中で習慣やしぐさなどを書き留め個々の職員の気づきを話し合い意向の把握に繋げています。 | |
| 24 | | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初回アセスメント時に、生活歴やこれまでのサービス利用の経過等をまとめたシートを作成し、これまでの暮らしが持続できるようにしている。 | | |
| 25 | | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月に1度のカンファレンスを行い、利用者様の状態を把握し、スタッフ全員が共有している。 | | |
| 26 | (13) | | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画書作成時に、家族様訪問時や電話等から生活に対する意向などを聞き、取り入れ3か月毎に交付している。 | 介護計画は本人の希望や家族の来訪時などで聞いた意向を基に、スタッフ間でカンファレンスを行い作成しています。必要に応じ往診時の医師や看護師の意見も反映されています。3ヶ月に一度介護計画は見直しが行なわれ、状況に変化があれば随時に見直しを行っています。 | |
| 27 | | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録に分かりやすく記録し、特変時など確実に申し送りを行うようにしている。 | | |
| 28 | | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問理美容・特別な買い物・臨時通院等随時対応している。 | | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の催しへの参加。 消防士を交え、年2回 消防訓練など行っている。楽団ボランティアも定期訪問してもらっている。自治会会長のボランティア支援。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様と家族様の希望に応じて往診医を決定し、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居時にかかりつけ医の希望を家族に聞き、相談して決めています。医療連携のもと、協力医とは24時間連絡可能で、定期的な往診もあります。他に歯科、皮膚科など定期的や状況に応じた往診もあり、利用者は適切に医療を受けることが出来ています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 2回/週 医療連携体制による体調管理を行っている。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族様・医療機関・主治医と連携し、早期退院に向け、カンファレンスを行っている。 | 主治医と密に連携を図り退院に向けてのカンファレンスを行ったり、指示書やサマリー等で情報を得て体制を整えています。入院中には見舞いを欠かさず家族との情報交換を心がけ、対応が可能であれば早期の退院に向けて支援しています。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は、家族様、主治医と話し合いを持ち、全員で方針を共有し 関係者と共に支援にとりくんでいる。 | 入居時には医療行為が日常的に必要な場合は退居に繋がるなど、ホームの指針を伝え署名による承諾を得ています。看取り等の経験はありませんが、時期が来れば主治医に間に入ってほしい、訪問看護も含め、家族とも話し合いを重ね方針を定める予定です。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故トラブル報告書 ヒヤリハットの共有、活用。緊急時対応マニュアルの周知。業務ミーティング開催。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 夜間1名対応時の避難方法は、全員周知している。地域の協力も運営推進会議で呼びかけ快諾を得ている。 年に2度消防署の指導の下、避難訓練を行っている。 | 年2回消防署の指導で昼間想定による避難訓練が行われており、夜間の訓練はシミュレーションをしています。運営推進会議や近隣に声をかけ、自治会長や子どもが参加し、水消火器等を使った消火訓練も行っています。 | |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (18) | | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの尊厳を守った声掛け、対応をスタッフが心掛けてケアにあたっている。 言葉遣いには特に注意している。 | 尊厳を大切にすることを常に職員に伝えると共に、研修を行っています。第三者が聞いても違和感がなく適切な声かけを重視し、職員間で注意し合い身につくようにしています。排泄の誘導についてもさりげない言葉かけを心がけています。 | |
| 37 | | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定できない際、家族様に確認し納得して頂くようにしている。 | | |
| 38 | | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴⇒夕方、買物⇒コンビニ スーパー 利用者様のペースに合わせた対応を心がけている。 | | |
| 39 | | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理・美容 1回/月 訪問…パーマ、毛染、カット、顔剃り 外出時や行事の時は スタッフがお化粧品やヘアセットをしている。 | | |
| 40 | (19) | | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様ができるそれぞれの役割を持ち、見守りながら一緒に行っている。食事も職員と一緒に食べる事もあり 参考料理も考えて下さることある。 | 盛り付けや後片付け、食器洗いなど、利用者は出来る事に携わってもらっています。食事制限のある方には器を変え量が多く見えるようにするなど、個々に合わせ配慮しています。献立作りには利用者の意見を聞きメニューに加えたり、外食に出かけたり行事食を楽しんだりしています。時には家族や職員と共に食事をとり会話を弾ませるよう努めています。 | |
| 41 | | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日食事摂取量と水分量を記録し、1日1300mlは摂取できるよう 細めに水補している。水分が摂れにくい利用者様には トロミをつけ 嚥下低下の利用者様には ミキサー食を提供している。(Dr指示) | | |
| 42 | | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。(歯科往診もあり) | | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう誘導している。また、日中と夜間で、はくパンツと布パンツを使い分けている。 | 利用者毎の排泄パターンを基に排泄の支援を行っています。退院後のおむつ状態から、きめ細かい誘導で布パンツとパッドに代わられた利用者があるなど、支援する中で変化がみられています。夜間の誘導では就寝とトイレ誘導のどちらを優先するかを、利用者の状況を職員間で話し合い工夫を重ねています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事の工夫や 起床時の水分摂取、食後のトイレ誘導での、便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2~3回ペースだが、希望や体調に応じて入浴を実施している。(シャワー浴・2人介助もあり)足浴や手浴を行って 気分転換を図っている。 | 入浴は出来る限り利用者の要望に沿うようにし、以前には夜間入浴される利用者もおり、職員体制が可能な限りの希望に沿った支援をしています。入浴が出来ない方は足浴に変えるなど、臨機応変に調整し、入浴を楽しんでもらっています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠不足の利用者様や 体調にあわせて日中、居室のベッドで休養をとってもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様が服用している薬の服薬管理を確実に 症状の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その人の趣味 嗜好に合わせた気晴らしの支援を行っている。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コンビニ、薬局(化粧品)ユニクロ等買物に行ったり、ホーム周辺の散歩に行くよう支援している。 | 日々揃っての散歩や外出が難しくなってきました。個別で雑貨や洋服等の買い物に出かけています。出かけられない利用者には、ウッドデッキでお茶を飲んだり外気浴をしています。初詣や花見時には家族の協力を依頼したり、家族と外食や買い物に出かけられるよう支援しています。 | 経年の中で全員での外出が困難な状況もありますが、個別に季節の外出機会を増やされてはいかがでしょうか。 |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を使用することへの支援はしているが頻度は多くない。お小遣いの管理は事務所で行っている。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙やハガキはスタッフと一緒に書いている。 | | |
| 52 | (23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快な音や光が入らないよう、窓やカーテンの開閉をこまめに行っている。また、ホーム敷地内に咲いた花などを花瓶に差し、季節感を採り入れている。リビングの壁面に利用者様の作品を展示している。 | 温度や湿度に気を配ったり、カーテンで光の加減を調整して利用者の居心地の良さに配慮するようにしています。階段や廊下には利用者の昔の作品やボランティアの作品などを掲示し、思い出の写真を飾っています。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング横に和室を設け、利用者様と家族様・スタッフがくつろげるスペースを作っている。(ソファも活用している) | | |
| 54 | (24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | それまで使っていた 家具やベッド 愛着のある生活用品を使用している。家族様や行事等の写真を居室におき 利用者が安心して過ごせる空間作りに努めている。 | 居室にはそれぞれの表札が手作りで掲げられ、自室がわかるよう工夫しています。居室の動線にも配慮し、荷物が障害物にならない配置を心がけています。人形や家族写真、事業所で皆で作った作品、配偶者の写真や仏壇などがあり、利用者毎に居心地の良い空間となっています。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全、安楽で、混乱を招かないようスタッフが見守り声掛けしている。安全や混乱がないように 常にスタッフが見守りや声かけをして 自立支援を行っている。 | | |